

# 西多摩医師会報

1987年4月1日 172号	発行所・社団法人 西多摩医師会	東京都青梅市西分3-103
	編集委員・石井 好明	井村 進一 TEL.(0428)23-2171(代)
	栗原 琢磨	小林 杏一
	道又 正達	村山 正昭 渡辺 良友

## 青梅市健康センター人間ドック報告

新米ドック医が意外に思ったことなど

青梅市健康センター長 石井 好明  
青梅市立総合病院副院長

1. 人間ドックと云うところは、大部分が健康人で、たまに異常がある人を捨い出すのが仕事か、と思っていた。

ところが、半年足らずながら表1の如く昭和60年度のAコースを受診した男性391名と女性368名の成績を集計したら、表2の如く、総合判定A(正常)は6%しか居なかった。B(僅かに異常を認めるが、日常生活にさし支えなし)も2%、BF(Bで経過観察を要する)も6%で、概ね健康者(A+B+BFは14%に過ぎなかった。尚、C(日常生活に注意を要する)は49%

表1

年令	受診者		
	男	女	計
30才~	102名	66名	168名
40~	121	103	224
50~	78	122	200
60~	62	63	125
70~79	28	14	42
計	391	368	759
平均	48.2才	49.5才	48.8才

G(精査を要する)は32%、D(治療を要する)は6%であった。

表2

年令	総合判定																	
	A			B			BF			C			G			D		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
30才~	12%	11%	11%	2%	3%	2%	10%	5%	8%	50%	42%	46%	26%	39%	32%	1%	0%	1%
40~	8	10	10	2	2	2	7	5	6	48	50	49	34	31	33	1	1	1
50~	1	1	1	1	2	2	10	5	7	42	59	53	33	26	29	12	7	9
60~	2	2	2	0	2	1	3	2	2	45	62	54	37	24	30	13	10	11
70~	0	0	0	7	0	5	0	0	0	25	36	26	37	29	48	11	36	19
計	6	6	6	2	2	2	7	4	6	45	53	49	34	30	32	6	5	6

各項目別判定の中、最悪の評価を総合判定としたので、全身状態がよくとも、肥満度11以上はCとなり、眼鏡を忘れて来た近視の人や、難聴の人はGとなってしまうので、日本病院会の臨床予防医学委員会が報

告した、昭和59年の413,748名の「人間ドック・自動化健診全国成績総合計」(全国成績)によるA+Bの30%より、かなり悪くなっているのかも知れない。とに角、全国成績でも、健康者はドック受診者の

(2)

3分の1もないということになる。青梅保健所の昭和60年版の事業概要によると、ミニドックの異常所見なしは、肥満度20以上を異常としたためか、354名中43%であった。又、昭和61年度の青梅市成人及び老人健康診査では、1,462名中、異常認めずは35%であった。

2. 人間ドックでは、「痛くもない腹をさぐる」のかと思っていた。

ところが、腹部診察で異常を認める人が、表3の如く21%もあり、その主なものは圧痛であった。そしてその圧痛は、殆んど、他の検査所見や診断と結びつかなかった。最近の(と言っても、1974年版の Barbara Bates の)診断学の教科書を見たら、正常の盲腸やS状結腸や腹部大動脈に圧痛を認めることがあると書いてあった。

表3

年齢	腹部所見異常あり		
	男	女	計
30才～	21%	26%	23%
40～	16	30	22
50～	9	24	18
60～	8	22	15
70～	36	21	31
計	16	26	21

3. 学生時代に古本屋で買った1942年版の Klemperer の診断学には、三尖弁音を聴診する場所は、胸骨右縁の第5及び6肋軟骨部と書いてあり、その通り35年間やってきた。ところが、Barbara には、胸骨左縁で聴けと書いてある。両方聴いてみたら、左の方がよく聞こえる例が多いようだった。

又、嘗ては、腹部臓器疾患の診断に、Boas とか小野寺とか、種々の圧痛点が重視されていたと思うが、本屋で立ち読みしてみると、最近の診断学の教科書には、そういうものが一切、なくなっているようだ。診断器械の発達によって、各臓器が直接、検査できるようになったので、あのような間接的な所見をとる必要がなくなったのだ

ろうか。それとも、あのようなものは当てにならない、と証明されたのだろうか。

4. 受診の動機は表4の如くであったが、或疾患で医療機関にちゃんとかかっているのに、ドックを受診した人が9%あった。又、何人かの受診者から、病院や医院は混んでいて先生も忙しそうなので、つい気がひけて、いろいろ聞きたくとも聞けない、という話を聞かされた。診療側にも、診断名に直接関係しない検査をやったら、保険でけずられるということもあるであろう。現代の医療事情では、人間ドックには、このようなギャップを埋める役割もあるのであるうか。

表4

受診の動機	男	女	計
1. 健康であるが、健康診断も必要と思うから……	25%	46%	46%
2. 健康に不安を感じるから	14	17	31
3. 現在、ある病気で治療中であるが、その他の病気も心配なので……	4	5	9
4. 現在、症状があるから……	3	4	7
5. 健康であるが、人にすすめられて……	5	1	6
6. その他……	1	0	1
計	52	48	100

5. 受診者の住所をみると、98%が青梅市民であったのは当然としても、表5の如く、

表5

住 所	受診者の割合	青梅市における人口の割合
第1支会(青梅)	11%	11%
2 (長淵・千ヶ瀬)	14	15
3 (大門)	20	22
4 (吉野)	7	8
5 (三田)	6	4
6 (小曾木)	3	5
7 (成木)	1	3
8 (東青梅・師岡・根ヶ布)	17	13
9 (新町)	7	7
10 (河辺)	14	12
計	100	100

市内各区分別の分布は、各区分別人口分布と殆んど同じであった。これなら、青梅市民の健康状態や生活状態を知る手がかりになるのではないかと、思った。保健所から、死亡統計や、特定の疾患の患者数の統計や、ミニドックの成績が発表されているが、もっと、日常診療に密接した実態が知りたかった。

そこで、問診票に記載された事項も重視して集計したが、表6の如く、両親の何れか或は双方に癌、高血圧、脳卒中、心臓症のある人が64%を占め、表7の如く、今迄に手術を受けたことのある人も45%（21%が虫垂切除術）であった。従って、私どものドックの成績は、青梅全地区からの人々の成績ではあるが、両親が成人病であったり、自ら手術を体験したりして、健康に関心を持っている層に偏った成績であるということになる。

表6

両親の何れか或は双方の健康状態	受診者数	%
がん(+)	182名	24
高血圧(+)	164	22
脳卒中(+)	158	20
心臓病(+)	118	16
成人病(-)	273	36
糖尿病(+)	34	5

表7

年令	手術の既往		
	男	女	計
30才～	23%	38%	29%
40～	38	55	46
50～	42	53	49
60～	60	43	51
70～	71	50	64
計	41	49	45
虫垂切除	18	26	21

6. かかりつけの医師や病院を持つ人の割合を調べてみたところ、表8の如く、男性36%、女性49%で、すべての年代で女性の方が多く、高年代ほど高率の傾向が見られたが、70才代の男性は、50～60才代よりも低

(3)

表8

年令	かかりつけの医師や病院を持つ人の割合		
	男	女	計
30才～	15%	44%	26%
40～	26	37	31
50～	49	51	50
60～	58	67	62
70～	36	71	43
計	36	49	43

率であった。昭和58年の厚生省の調査によると、かかりつけの医師がいる人は65%で、市群別の差はないとのことである。尚、かかりつけが、公立病院と答えた人は11%で、

かかりつけを持つ人の4分の1を占めていた。

7. 年をとると眠れなくなるものと思っていたが、表9の如く、70才代になると、睡眠時間6時間以下の人の割合が高くなっていった。一方、50才代、60才代の女性に睡眠6時間以下が目立つたのは、夜、御主人の帰りが遅く、朝、登校や出勤が早いという、現代生活のしわ寄せが主婦に来ているためであろうか。

表9

年令	睡眠6時間以下			睡眠8時間以上		
	男	女	計	男	女	計
30才～	13%	11%	12%	10%	5%	8%
40～	12	14	10	7	2	5
50～	17	25	22	12	4	7
60～	10	32	21	15	6	10
70～	11	14	12	25	29	26
計	13	19	15	11	5	8

8. 嗜好品調査では、表10の如く、成人病を促進するようなことを好む人は、男性に多かった。女性に甘いものを好む人が多いことは、表11の如く、女性に肥満度20以上の

表10

嗜好品	男	女	計
1. たばこを1日10本以上すう……………	46%	5%	26%
2. お酒をよくのむ……………	57	7	32
3. 塩からいものが好き…	42	25	34

4. 油ものが好き……………	26%	18%	22%
5. コーヒー、紅茶をよくのむ……………	26	19	23
6. 緑茶をよくのむ……………	38	48	43
7. 甘いものが好き……………	36	52	44

「病的肥満」が多いことと関連しているの

かも知れない。但し、70才代になると、50%対79%で、女性より男性の方が甘いもの好きが多くなっていた。

尚、「病的肥満」の率16%は、全国成績の17%、青梅保健所ミニドックの成績15%と同様であった。

表 11

年令	肥 満 度											
	20 以下			-19~-11			11 ~ 19			20 以上		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
30才~	6%	5%	5%	14%	13%	14%	15%	6%	11%	6%	14%	9%
40 ~	2	0	1	12	13	12	19	23	21	7	16	11
50 ~	0	1	1	6	3	4	30	22	25	14	30	24
60 ~	2	0	1	3	3	3	29	22	25	5	37	21
70 ~	4	0	2	14	0	10	10	0	7	11	29	17
計	3	1	2	10	8	9	21	19	20	8	24	16

9. 甘いものに関連して糖尿病に関する成績を見ると、表6の如く、両親の何れか或は双方が糖尿病だった受診者は5%であったが、尿糖陽性者は1%、尿ケトン陽性者も1%、空腹時血糖111mg/dl以上上昇者は男女とも4%に過ぎず、負荷試験をしていないとは云え、全国成績の16%と較べると、青梅では糖尿病が少ないのではないか、と思われる。

青梅保健所のミニドックでも、尿糖陽性者は6%、血糖値異常者は8%であり、青梅市成人及び老人健診で糖尿病と診断された人は、2%であった。

10. ドックでは、自覚症状のある人は少ないのではないか、と思っていた。

ところが、最近3ヶ月間の自覚症状について、33項目を上げて有無を質問したところ、表12の如く、自覚症状がない人は9%しかなかった。男性は12%、女性は7%で、かなり女性の方が訴えが多いのかと思ったが、6項目以上訴えた人を見ると、50才代までは女性が多かったが、60才代以上では逆転しており、必ずしもそうとは言えなかった。尚、21項目以上訴えた人は、いなかった。

一般に、診断に直結しない訴えが多く、

表 12

年令	自 覚 症 状 の 数											
	0			1 ~ 2			6 ~ 10			11 ~ 20		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
30才~	12%	6%	10%	25%	32%	28%	21%	29%	23%	2%	6%	4%
40 ~	12	6	9	34	28	31	15	25	19	2	5	4
50 ~	13	6	9	37	25	30	17	18	17	5	7	6
60 ~	18	11	15	24	21	22	24	20	27	3	3	3
70 ~	0	0	0	11	36	19	22	21	21	7	0	5
計	12	7	9	30	26	28	19	25	22	3	5	4

女性には神経、循環器症状が多く、男性には胃腸、呼吸器症状が多かった。又、頭痛、胃のもたれ、胃痛、下痢などは若い年代に多く、特に、「つかれ易い」と訴えた人が、30才代男性は36%、女性も29%と、他の年代より

高率であった。(全年代平均では18%)



## 理事会報告

### 2月定例理事会

昭和62年2月24日(火) PM 7:30～  
西多摩医師会館

議事録署名人 { 大嶽理事  
唐橋理事

### I 報告事項

#### (1) 都医地区医師会長協議会報告

会長代表で出席した松原副会長より紙面報告が行われた。

##### イ) 第22回日本医学総会について

当医師会への登録割当は現在52%が達成されている状況。一層推進を願いたい。

##### ロ) 国保の滞納者対策の概要について

悪質滞納者に対して資格証明書を交付、窓口では全額払い、納付後に7割分の償還等の法改正について

##### ハ) 62年度生涯教育の本制度化について

4月より自己申告制を開始し、期間は1年間、対象は日本医師会々員とし合計学習時間は50時間、学習内容は試行時と同様とする。条件を満たした者には修了証を発行する。

##### ニ) その他、AIDSに関するパンフレットが出来たので3月上旬に各医師会に配布するので利用されたい。

#### (2) 三多摩地区医師会庶務担当理事連絡会報告

以下の内容につき紙面報告(林理事)

##### イ) 国保の通知運動について、(三鷹市医師会)効果が少ないので中止するように都医を通じて要請。

##### ロ) 公立昭和病院の救命救急センター設置について(北多摩医師会)

##### ハ) 北多摩医師会館の改築について(北多摩医師会)、現在立川市にある会館は改築中で2月より10ヶ月間は小金井商工会館内に移転する。

TEL 0423-86-0055

##### ニ) 固定資産税軽減の件について(府中市医師会)

##### ホ) 各地区医師会に於ける救急災害時医

薬品の備蓄について(田無市医師会)

期限切れの薬品の点検処理について

##### ヘ) 医政連会費について(保谷市医師会)

ト) 各市医師会のエイズ対策について

(同上)各地区とも現在は保健所が主体で行われている。

#### (3) AIDSに関する指導者講習会報告

(松原副会長)

昭和56年頃に発見される。米国の同性愛者の男性に多くの死亡例がみられるようになった。58年にウイルス(HTLV)が証明された。米国では70%が同性愛者であるが日本では殆んど血友病患者である。1名のエイズ患者の周辺には50名の感染者がいると推定される。症状は不定であるが、持続する発熱、倦怠、体重減少、関節痛、難治性の皮膚粘膜症状を示すことが多く、感染後2,3週後に風邪症状を呈し8週後に抗体が証明される。売春婦の抗体を調査した結果、ナイロビでは60~90%、米国では4~40%に証明された。日本では神戸その他で行ったが陽性者はいなかった。以上が要旨である。

#### (4) 都医地区医師会救急担当理事連絡会及び産業医担当理事連絡会報告(宮川理事)

以下の内容について報告された。

##### イ) 三次救急医療施設運営会議

##### ロ) 東京都夜間診療事業の患者実態調査の依頼

##### ハ) 東京都産業保健連絡協議会

##### ニ) 昭和61年度産業医研修会開催

##### ホ) 東京都総務局より産業医設置計画案について。

#### (5) 都医地区医師会経理担当理事連絡会報告(川辺理事)

#### (6) 各部報告

##### イ) 学術部:講演会、勉強会について

##### ロ) 公衆衛生部:学童の血清脂質調査事業に関して福生市学校医団と話し合を今後も続けていく。

##### ハ) 学校医部:東理事より"学童の血清脂質検査問題について"と題して以下の学校医部委員会の報告があった。

## 学童の血清脂質検査問題について

この件は次の如き色々の問題をはらんでをり、単に採血をして脂質の異常高値を示す者を指導すればよいというような単純なものではない、特にこの事業の中核となる校医の十分なる理解を得ることが、先決である。その為にはその道の専門家を招いて、講演会を開き、諸々の疑念を質すべきである。問題はすべてそこから出発すると考える。

## 〈問題点〉

1. 動脈硬化症を予防する為に学童の脂質検査することの必要性和その目的を明確にすること。
2. この問題を西多摩医師会がとりあげ、事業として遂行する以上、長期的展望に立ち、学童、父兄はもとより、学校医、学校関係者、行政担当者等を含めた地域ぐるみの運動を展開するの必要があり、これは容易ならざる事業であることを自覚すべきである。
3. 尚、事業開始に先立って、採血後の具体的な対応について、十分な対策をたててから行うべきである。(文責 東吉男)

二) 広報部：石井理事より61年度地区医師会調査研究発表会報告があった。

A) 「都市部、非都市部における学童の食事傾向について」(中野区医師会)

母親不在の食生活が学童の肥満、やせの原因と思われる。

B) 「診療所と病院の連携について」(北多摩医師会)

診療情報提供書を利用している-39%、紹介状を持たせる-62%、病院から返事がくる-91%、送った患者について病院に問い合わせる-62%、退院後患者が戻る-56%、病院の研究会等に参加する-21%。

C) 「地域医療における病診連携の現況について」(港区医師会)

病院医師と開業医師とが親密になることが病診連携にとって最っとも大切である。現状では病院も一次医療を行わないと経済的に成り立たず、退院後患者を総て返すことも不可能である。

D) 「保谷市老人健康調査」(保谷市医師会)

80歳で50%が健康、95歳では25%が健康であった。

E) 「生涯教育申告書による大森医師会の生涯教育の試について」(大森医師会)

申告率80%、学習時間51~75時間が最多。自宅学習41時間、講演会28時間、体験学習9時間であった。

F) 「老人医療の実態調査」(調布市医師会)

現行負担額では受診抑制にはならないとする意見60%。

G) 「三鷹市における昭和57年の乳癌検診集計について」(三鷹市医師会)

1,250名受診、要精検25、要観察52、精査診断乳癌1名。以上が要旨であった。

## II 協議事項

(1) 昭和62年度一般会計予算(案)並びに昭和62年度各部事業計画(案)について

A) 川辺理事より提出された予算案は一部修正を加えて承認。また61年度収支補正予算書も承認された。

B) 各部より提出された事業計画(案)総て原案にて承認された。

(2) 昭和61年度各部事業報告について  
各部より提出された事業報告は総て承認された。

(3) 「医政討論会」について

近藤監事より会長に提出された見解、勧告に基き執行部と会員の間で話し合いを行うこととなったが、その具体的な方法、テーマを如何にするか等で時間的な関係から3月総会後に行うことになった。

(4) その他

西多摩医師会表彰規定により該当者を3月定時総会において表彰することになった。

## 3月定例理事会

昭和62年3月9日(月) PM 7:30~

西多摩医師会館

議事録署名人 } 塩沢理事  
宮川理事

## 議事

1. 昭和62年度園、校医推薦について

福生市立第2中学校医は上田先生の後任については福生市医師会に一任。他の自治体園校医については自治体よりの推薦依頼通り全員承認。

2. 前回理事会にて協議決定された3月定時総会において行われる医師会功労者表彰は5年毎に行うとする内規に従い63年度に行うことに変更された。
3. 青梅税務署の署員健康教育に関する講師依頼については青申会医師会支部に一任することで承認。
4. 東京都各局事業所等産業医推薦について  
宮川理事より以下のように提出され承認。  
吉野住雄先生 青梅都税事務所  
西多摩経済事務所  
西多摩福祉事務所  
野本正嗣先生 畜産試験場  
山口岱三先生 西多摩建設事務所  
大川原周先生 誠明学園  
宮川栄次先生 日の出福祉園
5. 近藤監事への返答について

1月20日付けで近藤監事より西村会長に提出された医師会運営に関する見解、信任投票の勧告について、近藤監事の出席を得て話し合いが行われた。始めに、本見解書面の提出までの推移、その後の理事会での

見解内容の討議遅延について、近藤監事より発言があった。これに対して理事側より見解書面のみでは全理事には充分真意が伝わらず、対応に時間を要したのであり、理事会に出席のうえ説明されることを希望した旨の発言があった。続いてこの見解書面は監事の権限として総会を開催し信任投票を要求しているものではないことを確認したうえで総会での信任投票は行わないことが全理事にて承認された。尚、見解書面の内容につき今後充分に討議すべきであると発言が多数あった。

### 3月臨時理事会

昭和62年3月17日(火) PM 7:30~  
西多摩医師会館

#### 議題

1. 昭和61年度定時総会全般について
2. 学童脂質調査の実施については3月19日に行われる学校医部、公衆衛生部合同委員会での検討結果を理事会の最終結論とすることで承認された。
3. 管内三保健所より各保健所老人保健連絡協議会委員の推薦依頼があり、それぞれ選任された。

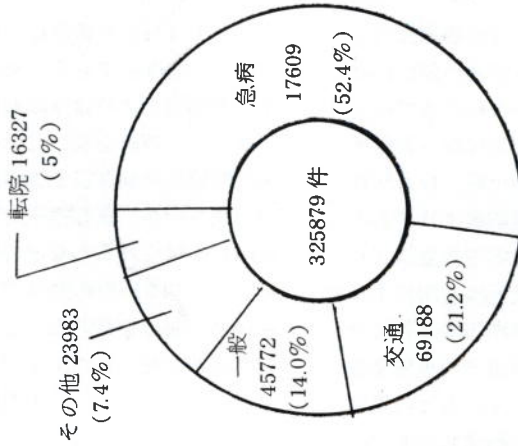
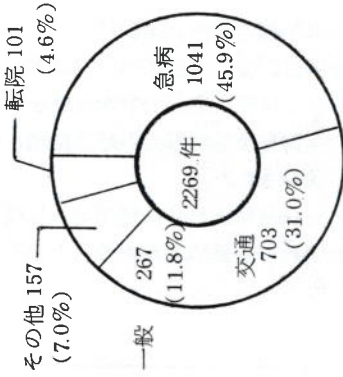
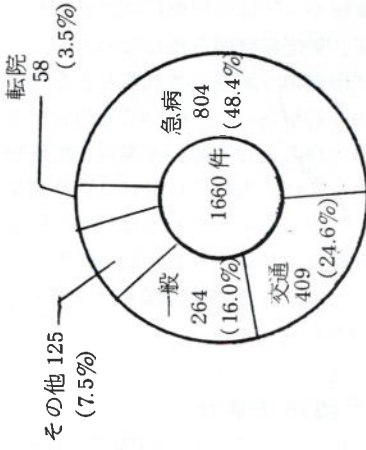
## 第1回医師会救急隊懇談会

2月25日(水) PM 1:00より西多摩医師会館にて第1回医師会救急隊懇談会が開かれた。医師会側より大塚、松原両副会長、各ブロックより宮川救急担当理事、川辺理事、栗原理事、水口先生(高木病院)が出席、救急隊は青梅、福生、秋川、奥多摩消防署より7名の出席があった。救急隊活動状況を救急隊より説明があり(グラフ参照)最近は急病による出動が多い事、また、奥多摩消防署は特に交通外傷が多く、奥多摩有料道路での重傷事故ではヘリコプター輸送も行っているとの事であった。医師会側に対し転院転送時可能なかぎり医師ないし看護婦の同行を希望し特に静注点滴を行っている患者の転送時には是非同行を願いたいとの要望があった。また転送先

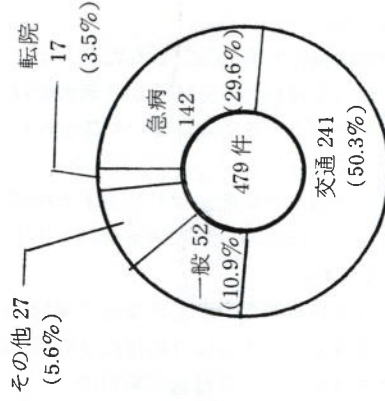
の医師をはっきり指定し、事前に医師の方よりの予約を取ってもらいたいとの要望があった。医師会側より救急隊転送時の手引を作してほしい。救急を要しない救急車搬入患者の来院時特に早朝深夜に当直医の署名等の改善が出来ないか、医師搬送時事故補償はどの様な時に受けられるかなどの質問や希望が述べられた。約2時間の懇談であったが、今後とも同様の懇談を持ちたいとの医師会、救急隊の希望にて終了した。(グラフ、次頁)

(渡辺 記)

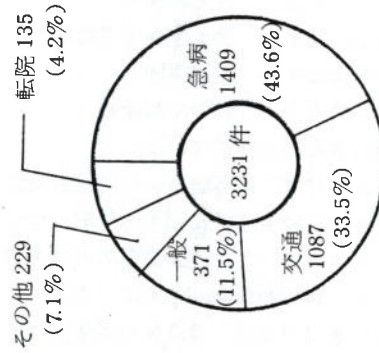
事故種別件数



秋川消防署



青梅消防署



東京消防庁

奥多摩消防署

福生消防署



## 文芸・随筆

一つの青春  
—近代史に生きる—

## その四 北京・蒙疆（内蒙古）

## 18 天津に着く

日本は北支側の蒙古に「蒙疆連合自治政府」を作り蒙古各民族を結集して1つの国を作らせて、蒙古の王族の中で1番人望のある徳王を主席とし、李守信を最高軍司令官に、そして、政府の最高顧問には、慶応の細菌学の教授だった金井章二博士が当たっていた。

北支での第1歩として、天津に10月1日着いた。

翌日、大連にいた時に紹介状を貰っていたので、川嶋芳子を松島街にある彼女の経営する料亭東興楼に訪ねた。

川嶋芳子は馬賊の頭目であったこともあり、また、男装の麗人として当時有名であり、戦後は、東洋のマタ・ハリ（ヨーロッパの女スパイ）と新聞などに書かれた。

彼女は肅親王の王女であるのだが、6才の時、川島浪速に養女として貰われ、日本で教育されて松本の女学校に通ったりした。川島浪速は陸軍少将で退役し、大陸浪人をしていて、肅親王と共に、辛亥革命で倒された清朝の再興を図り満州の独立運動をしていた人である。なお、川嶋芳子に紹介状を書いた人は、肅親王の王子で金壁東氏、彼女の兄に当たる。

## 19 川嶋芳子

目の前に現れたのは、しとやかな、ニコニコして笑みを絶やさぬ、絶世の美人とも言うべき貴婦人であった。年の頃は26~27才か。

満州国建国にまつわる彼女の話は、感動的だった。

『今の満州国の皇帝の溥儀は、清朝最後の皇帝だったのです。溥儀を満州国の皇帝に担ぎ出そうという事になり、住んでいた天津から支那側の警戒や日本軍の目をごまかして、秘密裡に天津を脱出させようとの作戦だったの

## 青梅市 近藤 肇

です。先に溥儀を連れ出し、大連の東の方の遼東半島湯崗子温泉に隠しました。皇妃にも秘密なのですが、あとで、溥儀の所に連れて行ってやるという、私は男装して皇妃を男装させ船で連れ出し、大連のヤマトホテルにかくまったのです。』

彼女は目を輝やかしてそう語ってくれた。

この脱出作戦の成否は満州国建国を大きく左右したものであった。

彼女は自分が関東軍の中樞深く入りこんでいるのを、将官などの名を挙げ、また例を挙げて話してくれたが、重要な役割を演じていた事が覗えた。

『支那は日本の力がなくては国として安定しませんし発展しません。このままではいつまでも欧米の植民地です。支那には日本の力が必要です。アジアの共存共栄が必要です。』彼女は力をこめて言った。



天津にて（樋口氏令嬢と）

彼女の使命感とするものは、自分が日本と戦っている支那側の司令官の多くを知っていて、何等かの連絡がとれるし、勿論日本側とは満州国建国以来、関東軍の参謀達高級将校などとの親交はあったから、自分なりに、ひと役果そうとの自負があったのだと思う。

## 20 私の首には懸賞金 5 万元

私は彼女との会話の中で、支那人の悪口に触れた言葉があった。

『近藤さん、私は支那人ですよ、支那を愛する支那人ですよ。支那人の悪口言わないで・・・』と、彼女ははっきりそう言った。

『問題はねえ、指導者ですよ。単にねえ、侵略じゃダメですよ。本当に支那の民衆の為を思って、満州の五族協和・王道楽土を考え、支那を友朋と思っている人が何人いると思えますか・・・。だけどねえ、私はアジアを救うのは日本の力しかないと思いますよ。』

そして言葉を続けて、

満州や朝鮮を狙い続けるロシアと日本の間の利害の衝突が日清（1894年）日露の（1904年）戦争となったこと、欧米諸国は支那を狙っていたから、日本が日清戦争の結果得た遼東半島を放棄させた三国干渉（ロシア、フランス、ドイツ）があったこと。

その後、ロシアは遼東半島を租借して、占有、満州に軍隊駐留、ロシア・フランス・ドイツ・イギリスは各地を租借したりして、帝国主義を争い、ロシアは朝鮮半島にも軍隊を駐留していたので、日本は朝鮮半島での優越性を守りたい、ロシアは満州の権益を守りたいという政策の衝突が日露戦争となった・・・日韓合併は、朝鮮半島の王朝が人心を失い、国内情勢は永年の間不穏であったし、ソ連の侵略を防ごうとする目的があったため、国民の間に反対があったけれども強行された・・・などと歴史を語ってくれた。

当時の状況から言って、日韓合併がなかったら、朝鮮はロシアの植民地になっていたかも知れないという議論はある。最近問題となった「藤尾発言」はこういう様な歴史の背景の解釈から出たものである。

日本の満州国建設には、或る意味で歴史的必然性があったと思う。

陸軍が政府の方針を無視して戦争を中国全般に拡大せず、満州国建設だけにとどめておけば歴史は変わっていたであろう。

『人間は皆同じ人間です。差別はないです。支那人も日本人も兄弟です・・・。同胞相殺む、骨肉の争いは止めて貰いたい・・・。』

私は日本の為に働いているのではないのですよ。支那人の為に働いているのですよ。私は支那人ですから。』

『私の首には、国民政府から 5 万元（いまの約 5 億円か）の懸賞金が掛っているのよ。』

日本の憲兵隊も私を狙っているのよね、私どうしたら良いの、近藤さん。』

絶世の美人はそう言って私の顔を見て笑った。

天津の街を歩いていたら、古い汚れた破れかかったポスターに、彼女の写真と次の字句が出ていた。

「漢奸！金 璧輝 懸賞金 殺した者に 5 万元」と。

彼女の名は、満州姓が「愛新覚羅」中国姓は「金」、名は「璧輝」である。

## 21 北京にて

満州の満鉄に相当する華北交通では、衛生課長には、満鉄の衛生課から転じた先輩がなっていた。

華北交通から、満州と同じように北支全線無料で乗れる「鉄道検疫」の腕章を貰った。

北京では、清朝の歴史を物語る万寿山、天壇、紫禁城（今は故宮と言っている）、北海・中南海公園、離れて明の十三陵、70キロほどにある八達嶺での万里の長城など名所、古跡を見学したり、買い物を中心地王府井を歩き、東安市場という俗に「泥棒市場」と言われている街では、ヒスイや象牙の偽物をつかまされたり、何につけても値段を胡麻化されたりした。

洋車に乗るとき、日本人客『どこどこまで。』と行先をいう。

そうすると、『あなた、いくらか。』とくる。買物にしても、『あなたいくらか。』となる。

料金や値段や価値を知らないダメである。洋車に乗った場合、同じ区間を倍以上もとられたりする。こんな事から、日本人が満州で乱暴していた様に、支那人を殴ったり、蹴っ突いたりする光景が見られた。

## 22 京包線を行く

北京から蒙古の包頭まで京包線が走ってい

た。終点の包頭は、黄河を境に敵と接していて最前線であった。

包頭まで間には、蒙疆政府のある綏遠とか「大同の石仏」として有名な大同などがあつた。



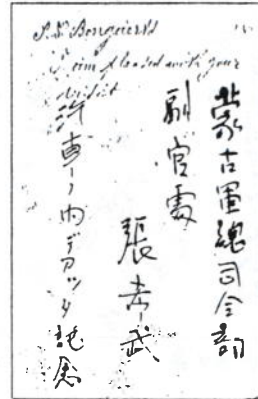
大同雲崗の石仏群の一つ

綏遠は蒙疆政府の首都となつてから「厚利」と名を変えた。(新中国では今フフホトという。)

大同には、「雲崗の石仏」として有名な石仏が岩山に多数並んである。規模の雄大さに驚嘆した。

大同から包頭へと向う途中、厚利まで汽車の中で、蒙疆軍の将校と話をする機会があつた。日本語の良く出来る蒙古人で、品のある男だった。

サイン帳に書いてくれたのを見ると字も確りしているし英語も書き、なかなかのインテリようであつた。蒙古軍の総司令部に在ると言うのだったので、包頭からの帰りに、この彼を総司令部に訪問した。



汽車の中であつた  
蒙古軍将校のサイン

『徳王は不在です。軍司令官の李守信閣下にお会いできるよになりました。』

と、彼は軍司令官の部屋に私を案内してくれた。軍司令官の李守信は馬賊出身かどうかは判っきりとしないが、一応は軍閥

の親分だったのであろうと思う。サインしてくれたのを見ると、軍司令官となるからには勉強したのではないかと想像をした。

金井最高顧問は不在で会えなかった。

### 23 黄河の畔に立つ

黄河はコンロン山脈から、東へと辺境を流れた後、北の方へ迂回して蒙古に達する。包頭付近の黄河は最北で、勃海湾から2000キロの上流、この辺の川巾は広い。この辺から流れはまっすぐ南へ下り、東へと流れて勃海湾に注ぐ。

NHKの取材班は、蒙古の黄河は平地であるため題材にしてなかつたようである。

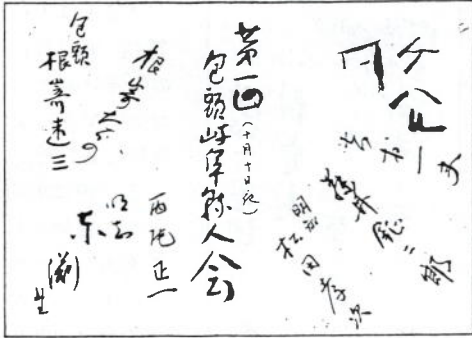
包頭を流れる黄河の水の上で、エンジンをつけたプロペラ船と称するのに、兵隊さんに乗せて貰った。

こんな第一線にでもカフェーがあり、銀パレスとか黒猫だとかという名がある。日本人や朝鮮人の女がだらしない格好で厚化粧している。おでん・かん酒の文字の店がいくつかある。

包頭の郵便局長と会つた時、たまたま、私が岐阜県人であるという事が分り、その郵便局長も岐阜県出身で、歓迎会を兼ねて第一回の岐阜県人会が開かれた。10月10日の夜だった。

だが、私が日本に帰つた翌月の11月の或る日、折から結氷した黄河を渡つて来た敵に攻撃されて全滅したという事を後で知つた。私を世話してくれた岐阜県人の人達ははじめみんなは、その時どうなつたろうか。





岐阜県人会寄せ書

昭和13年10月10日 黄河畔プロペラ船に乗る  
岐阜県人の人々と。前列右2人目筆者。

## 24 再び川嶋芳子のこと

10月14日、天津に戻って来た。

天津滞在中世話になっていた先輩で、天津で開業している樋口潤二氏が、私の歓迎会を兼ねて、軍医で来ている慶応の卒業生に呼びかけて天津三四会をやるということになって、15日の夜に川嶋芳子の東興楼で開かれた。

川嶋芳子が出て接待してくれた。

『私、寅年よ。』といった。

彼女が寅年だとすると、36才にはとても見えない、24才として、私と1つ違いという事はない。彼女が寅年といったのは、永い間、私にとって謎だったが、戦後、いろいろ書かれたものによって、彼女は明治39年(1908年)生れだと知った。そうすると、この時30才だった。

彼女は頭は良く、美貌で、才知に支配、何事にも天才的なんだが、当時から世間の噂は天才的なハタハリとウソツキの名人だったという。彼女にかかわった人は彼女がハタハリとウソツキの名人だと承知しつつ、彼女に惹

きつけられるのだったらしい。

「寅年」も、ウソだという事を戦後知ったが、何の為のウソだったのかという私の推測だが、彼女の生れ、実はヒノエンマだったので、日本人の心を十分に持っていた彼女はヒノエンマというのを嫌い、自分の男勝りさにふさわしい『寅年』とウソを言いたかったのではなかろうか。また、16才で馬賊の頭目といわれたのもウソである。彼女が馬賊の頭目だったのは、満州建国の年から数年間である。

帰順兵を3000名を関東軍からあてがわれて、その司令官として抗日の軍閥や馬賊の帰順工作や謀略をやっていたのは、計算してみると24才の頃であった。

強力な敵に対して関東軍が手を焼いているのを、敵地にパラシュートで降りて帰順工作をするなど、目を見張る活躍をしたものだ。寅年生れとすると、その時は16才ということになる。彼女のウソに引っかけ、新聞などに紹介された時、16才で馬賊の頭目をやっていたとされたのではないかと思う。

もうひとつ私の思うこと。それは、彼女が私に書いてくれた色紙のサインには、川島の島が嶋となっていること。これは、養父の川島から脱却して独自性を持ちたいという気持があって島を嶋にしたのではないかと思う。

戦後、書かれた出版物で知ったのだが、彼女は、天才であると同時に大きな魔性を備えていて、それに誇大妄想で病的嘘言癖があり、淫乱であったという。また彼女の物は絶品だったとも言われていたから男は魅せられたようだ。彼女の話に、多田駿少将(後に中将北支軍司令官)や、田中隆吉(後に陸軍省の兵務局長をやり東京裁判で検事側の証人になって注目された人)などの名前が出たが、そういう人の愛人になっていたのは誰もが認めているようだ。彼女は愛人になることによって、情報を得たり、権力の近くにいる事が出来るようにしていたと思われる。淫乱でもあったろうが、計算をして女である事を武器にして男を操っていたのではないかと思う。

子分を連れ回して、軍服を着て長靴を履き、馬に乗り颯爽と街を歩き、夜はダンスホールに出入りし、ボクとかキミとか云って子分に取りま



かれて派手にふるまっていた彼女は、次の日には自分が利用している要人と寝る。これが川嶋芳子そのものだったのである。



川嶋芳子としての書

李香蘭（山口淑子、現在参議院議員）などの支那満州の映画俳優などを取り巻く社会で、彼女と李香蘭との間で葛藤もあったようである。

## 25 彼女に魅せられて

『近藤さん、お父さん骨董は好き？ああそう、ではねえ、清朝に伝わる2000年前のお茶碗をお父さんに上げるわ。』

“彼女は、どうして俺を気に入ってるんだろう”と、私は、錯覚してしまった。

何と素晴らしい事かと心はワクワクした。

だが、この日はくれなかった。終りに彼女は、

『近藤さん、今直ぐ出ないから、明日また来てね、押入れを小隊長に探させておくから。』と。

小隊長というのは、彼女の馬賊時代の部下のボーイである。この店には大勢のボーイが働いているが、彼女によると、これは中隊長、これは大隊長、これは副官などと昔の部下ばかりとの事である。兵隊は、350名ほど、山東省に帰農させてあり、いざという時には、いつでも集まれるようになっているという事であった。

次の日の夜、樋口氏と一緒にまた行った。

だが、清朝に伝わる2000年前のお茶碗の件はコレポチも話に出なかった。

『ご免なさいね、まだなの、小隊長に探させておくわ。』

その次の日の夜、また行った。だが、再び、

『明日こそ探させておくわ。』となった。

また次の日、行こうとすると、樋口夫人が言う。

『あなた、よしてよ。川嶋芳子にかかっちゃあ、彼女は淫乱で、財産をすっちゃったという人が随分いるという話あるでしょう、また、凄い梅毒を染された人がいるなんて話有名じゃないの。』

それでも、樋口氏は私を連れて行ってくれた。

やっぱり、その夜も、『近藤さん、また明日ね。』という事になった。

樋口夫人が言う。『ほれ、ご覧なさい。やっぱりくれやしないじゃないのよ。』

川嶋芳子の人を惹きつけるすごい魅力に、私は引きずりこまれたのだったのだろうか。だから、次の日もまた行った。これで6日間連続である。私は、お茶碗欲しさもあるが、彼女と話をしていると楽しくもあり面白くもあるから、精進もなく、川嶋芳子詣でとなったのである。

ところが、この日は、東興楼の黒い大きな門は締っていた。

どうしたんだろう？

出て来たボーイに聞くと、今朝早く、日本の憲兵隊に連れて行かれたと言う。

彼女はやはり、日本の憲兵隊からは目をつけられていたのだ。

「あーあ、いつまでも天津におれない。」

と、天津で、魅せられたように、川嶋芳子の許へ、通った私は、これで諦めがついて次の朝、樋口氏夫婦に感謝して天津駅から済南に向った。

## 26 帰国

済南に着いてはみたが、徐州は5月に陥落したといっても、まだ鉄道で南京に行ける状態ではない。仕方ないので、済南から青島に行った。

青島から上海へ行けないことはなかったが、考えた結果、帰国する決心をした。青島を10月26日発、門司行の船に乗る。学校へ帰ると、友達が出席の“代返”をしてくれた友情のお蔭で、出席時間の不足にはならなかった。

教授会の昼食会に招かれて講演をした。これは、余徳が大きかった。この後の試験で、口頭試問の大抵の先生は、私の旅行の話に触れるのだが、質問をひとつもしないでAをつけてくれた先生もいた。

翌年2月、日本の新聞に、「川嶋芳子、天津の街頭で銃弾に斃る。」と出た。

私は雑誌に追悼文を書いたが、実は死んではいなかった。

戦争が終って、川嶋芳子は中国国民党に捕えられた。

彼女の裁判での答弁や、国民党を批判したり、政府の悪口を言う様子が新聞に報じられて、人々の間で人気があったらしい。

昭和23年3月、彼女は、北京監獄で処刑さ

れた。

新聞に載った彼女の処刑後の、血にまみれてうつ伏せになった遺体の顔は、余りにも、かつての面影なく、惨めだったそうである。その為かどうか、

「金壁輝は生きている。」

との替え玉説が、民衆の間で暫らく信じられていた。彼女は民衆の敵ではなかった。中国なる祖国を愛する中国人、そして、日本を愛する中国人だった。少くとも私の会った昭和13年当時は、彼女はその様に積極的に行動していたようである。だが、その後大東亜戦争となつてからは、戦局は彼女を大して必要としなくなつたに違いない。その為彼女は軍に失望し、生活は乱れモルヒネを常用し、人格破綻の状態だったらしい。彼女の生涯は天才的且つ狂人的であり奔放な言動が多かつたから、戦後の評価は戦争中のイメージとは程遠い。だが私には、彼女の素晴らしさしか印象に残ってない。なつかしい思い出の人である。 (完)

「春光の陰影」 小泉新策

朝の日はそこはかとなく春めきて  
 光まばゆく影を映しぬ  
 庭隅の薔薇の芽赤み針のごと  
 伸びて氷雨を含み膨るる  
 門脇のシナレンギウも一面花ひらく  
 目覚むるばかり黄色一面  
 国会は重税制改革を難行しあり  
 慎重審議信を失う匆れ  
 いよいよエイズ対策も動き出す  
 日米合同エイズ対策も進捗しつつに  
 エイズ問題く世紀にわたる病魔かな  
 最善つくすも恐怖は消えじ  
 チェルノブイリの世紀に及ばんと動き出す  
 被爆の被害の世紀に及ばんと動き出す  
 流通に被爆物質は変貌しんとす  
 放射能禍地球を被はんとす  
 撒布ける食品の危険セシウムの肉腫  
 ストロンチウムの白血症消ゆるに一世紀を要すとか  
 足速やに桜前線移り行くも  
 心は重し春光浴びるて

## 学術講演会

S 62. 4. 16 (木)学術講演会 要旨

### 『アレルギー性疾患の最新の治療と漢方』

春はスギ花粉症の季節であります。この花粉症も昭和50年の初めころより増加傾向にあり、小児期のアレルギー性鼻炎も若年化の傾向があります。ともかく、感染症の減った現代においてはアレルギー性疾患の重要性は一段と高まってきていることだけは事実のようです。

#### ◎アレルギーに関する最近の話題

最近抗アレルギー剤の開発目覚ましく、抗アレルギー剤の作用機序の違いや特徴について、詳しい説明をする必要も高まり、抗アレルギー剤のロイコトリエン作用の強さやロイコトリエンの遊離抑制作用や産生抑制などを指標にその効果を競う時代になってきました。最近の治療面では、静脈内投与のような持続性放出テオフィリン内服療法が目覚ましい効果をあげようになりました。一日1～2回の投与ですみ、最近では血中濃度の測定が簡単に出来るようになり適正治療用量の決定を容易にし、発作好発季節には副作用を回避しながらの長期

使用も可能になりました。

#### ◎アレルギー性疾患に対する漢方療法の有用性

抗アレルギー剤の開発が進むなかであって、漢方療法の存在価値は

- 1) とくに紫胡剤には気管支喘息の患者の易感染に対して効果がみられる。
- 2) 症状別(証により)に処方を変えての対応が可能である。
- 3) ステロイド類似様効果なども期待可能である。
- 4) 気管支喘息の患者にはいわゆる「気」への対応も可能である。
- 5) 抗アレルギー剤との併用が現状では健保でも認められているようであり、その効果も期待出来る。

国家公務員等共済組合  
連合会立川病院

小児科部長 甲賀 正聡

#### 学術研究会・講演会報告

S 62. 2. 10 (火)

講題 「貧血について」

講師 日大医学部第一内科

西成田 進先生

司会 林 実先生

お礼挨拶 大塚 渉先生

出席者 30名 { A会員 26名  
B会員 4名

評価 ①12名 ②2名 ③0名(16名)

S 62. 2. 18 (水)

講題 「脳血管障害の病態と治療の変遷」

講師 浴風会病院長 大友英一先生

司会 塩澤永康先生

お礼挨拶 松原貞一先生

出席者 25名 { A会員 23名  
B会員 2名

評価 ①14名 ②2名 ③0(11名)

注：アンケートによる評価

- ① 大変よかった
- ② よかった
- ③ 期待した程でなかった
- ( ) 無回答

塩澤



## 診療報酬明細書返戻状況

12月分

返 戻 理 由	医科(乙表)件数			
	青 梅	福 生	秋 川	西多摩
1 保険者番号、記号○番号、公費負担者番号、市町村番号、受給者番号の不備又は保険者番号と記号の不一致	18	12	8	29
2 旧証の記号○番号		1		1
3 患者名、生年又は生年月のもれ		1		
4 傷病名のもれ	3	6		1
5 診療月分、診療開始日、診療実日数、転帰のもれ	6	3		1
6 診察料(初診、再診、往診又は時間外等の表示)のもれ	1	1		4
7 診療月と診療開始日及び初診料の不一致	13		3	9
8 診療実日数と診察回数又は処方回数の不一致	3	8	1	9
9 投薬○注射(薬名、規格単位、用量、回数)の不備	8		1	3
10 処置○手術○検査○X線(薬名、回数、内訳)の不備		2		3
11 入院料の不備	1			
12 点数欄記入もれ又は点数算出根拠不明	2		1	2
13 契約外(国保、国鉄、公費等)		1		2
14 症状詳記(診療内容及び方針の説明等付せん参照)	1	1	1	2
15 医療機関(薬局)の申し出によるもの				
16 その他				1
計	56	36	15	67

## 同好会だより

## 第56回西医ゴルフ研修会

昭和61年11月30日(日)

於 高麗川C.C.

	O	I	G	HD	N	新HD
大嶽(栄)	40	39	79	11	68	8
大橋(弘)	48	46	94	25	69	21
宮川	41	40	81	9	72	
大嶽(繁)	51	46	97	22	75	
内山(大)	51	40	91	15	76	
三井	56	49	105	29	76	
池田(久)	58	53	111	34	77	
杉本	48	48	96	18	78	
笹本	58	50	108	30	78	
鈴木	48	45	93	13	80	
足立	48	48	96	15	81	
内山(淳)	57	58	115	30	85	
大堀	65	58	123	33	90	
井村	65	62	127	36	91	
大橋(敏)	82	75	157	36	121	
高水	N.R	52				

## 第57回西医ゴルフ研修会

昭和62年1月24日(土)～25日(日)

於 川奈G.C. 富士コース

	O	I	G	HD	N	新HD
小野	53	57	110	36	74	30
川崎	52	52	104	26	78	24
池田(久)	57	57	114	36	78	34
高水(文)	41	42	83	5	78	
野村	47	54	101	18	83	
杉本	48	53	101	18	83	
足立	51	47	98	15	83	
笹本	52	62	114	30	84	
大嶽(繁)	54	55	109	24	85	
竹前	51	46	97	10	87	
大川原	63	52	115	26	89	
池田(聖)	55	67	126	36	90	
内山(大)	51	54	105	15	90	
大嶽(栄)	49	51	100	8	92	
山田	61	68	129	36	93	
松原	59	56	115	21	94	
宮川	49	54	103	9	94	



あ と が き

確定申告の季節である。税制改革、売上税の新設など連日新聞、テレビの話題を独占している。あるお茶の間番組に出演していた「税金党」の野末陳平氏が「みんな税金がたか過ぎるとか、不公平とか言っているけど、国民の大多数の人は自分が納めた税金よりもっと高額之恩恵を国から受けている。

一部の高額納税者、企業からの税などにより国は成り立っているのが実情だ」と話していた。

毎年のことながら10月頃より始まる道路工事が今時期になるとピークに達し日本中の道

路がはじくり返され交通渋滞のラッシュとなる。電話工事、下水道工事、上水道工事、路面補修工事、歩道取付工事等々。これ等の工事がていねいにも一つ一つ行なわれるから掘っては埋めるのくり返しである。

我々は税金を納めることに関しては真剣に考えるが、これがどのように使われたかになると割合無頓着である。与野党議員諸氏に予算の「ふんだくり」にだけ終始せず税の効率的運用にも配慮があれば毎年今の時期におこる「診療意欲減退症」も少しは軽快すると思うのだが。

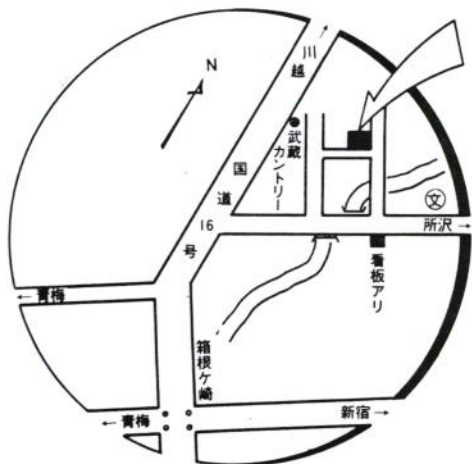
担当 栗原 琢磨

お 知 ら せ		
	五月 八月 (金)	五月の保険提出日
正午迄		

訃 報	三枝みわ様六十一才 三枝進先生御母堂 三枝襄二先生御母堂 去る三月十六日御逝去されました。謹んでお悔み申し上げます。
--------	---------------------------------------------------------------------

# 期待と信頼にこたえて15年!!

検査のことなら**武蔵臨床**へ 電話一本緊急検査に応じます  
学校、会社の集検にも御利用下さい



埼玉県登録衛生検査所

## 武蔵臨床検査所

所長 杉田 富徳

埼玉県入間市上藤沢 3 3 9 ~ 1

TEL 0429 (64) 2621(代)

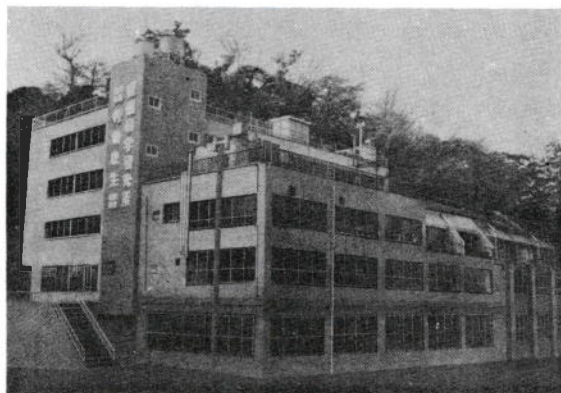
## 臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町 1 0 6

電話 045 (333) 1661 (大代表)

八王子市子安町 3 - 1 7

電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データ通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
  - 内分科学研究検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
  - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

| 都|県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。